

第7回 番組審議会議事録概要

1. ◆開催日時

平成29年4月17日(月) 午前11時より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 杉浦克昭、藤原庸介、竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、林香里

株式会社サテライト・サービス

清水賢治、岡崎洋三、手塚久、窪田正利、五百城重典、平野雄大、関克哉

株式会社フジテレビジョン

福本洋、門澤清太、永竹里早、鹿内植、宋ハナ、影矢隼壮

株式会社ジュピターテレコム

平本善一、森井 健策

ディスカバリー・ジャパン株式会社

道井隆之、高山真詩

4. 議題

1) 「感情8号線」第1話 「荻窪 真希」

フジテレビ TWO ドラマ・アニメで放送

2) 「MY CAT FROM HELL」猫ヘルパー～猫のしつけ教えますくシーズン4 Ep.10

>

アニマルプラネットで放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

「感情8号線」について

- ・面白く6話観てしまいましたが、比べられてしまうので役者としてはやりづらいだろうなと思った。ちょっと考えさせてくれる話が6話通してあってもいいのではないかと思った。
- ・「感情8号線は南にいくほどセレブ感がある」というセリフが面白かった。
- ・貫地谷しほりさんの演技が素直ですっぱり入ってきたという印象。
- ・フジテレビがこういうドラマを作るようになったのかという感想が一つ。非常に良くでき

たドラマなんだけど窓が無く、非常に内向きというか。フジテレビのイメージはとにかく前向きで楽しいイメージ。こういうものが受けるとすると、フジテレビの本来のイメージは受けなくなってきているのではないか。ドラマ自体は非常に楽しく観させていただいた。

- ・男性が観ていてあまり面白いドラマではないかなと思う。男がバカなのは知っているので女房とみていると肩身が狭かったです（笑）
- ・自分たちが子供のころに比べると環八ってこんなにおしゃれになっているのかと思った。東京を知らない人がどういう風に映像として見るのかが気になった。
- ・若い人たちの結婚観というのが本当にこんな感じなのか、自分の生活を中心に考えて、多少のことは目をつぶっていく、そんなのでやっていけるのかという思いもある。
- ・これはすごくいいテーマ。ある種日本の縦割り社会が反映され、住んでいる人も違えば文化も違うというところがいいところなのでそうしたほうが良かった。
- ・1話目が川栄さんなのは話題性として…というのはわかるのですが、2話目3話目は観始めるとぐいぐい引き込まれるし、テーマ性もあったのでそちらを先にした方がよかった。
 - ・荻窪が方角で上ということもあるが、その街を全然描けていない。つまり荻窪というのは劇団員が多い街、アパートが多くて…ということを全く描けていないので北から順番にはこだわらなくてよかったのではないか。
- ・不覚にも原作を読んでいないが、どういう目的で書いた小説かはわからないがプロット的には良いなと思った。映像については良く分からないが、第1話雨の中の照明のシーンがすごくきれいで、非常に良い出来栄えじゃないかなと思った。観ていて非常に感動的だったが、第1話、第2話ともに非常に闇が描かれていて、日常にありそうなこともあるので、どこをメインに訴えたいのかが分からない。ただ非常に面白く見られた。ただ、エンディングの歌は「ひょっこりひょうたん島」以外はスッと入ってこなかった。
- ・第1話は、23歳の若い女性は何者かになろうと必死で過ごしているという、かつての自分にもそういうときがあったなと思うのですが、昭和の感じがした。安アパートの前に彼が座って待っているとか、今もあるのかな？若い人たちが観てどう思うのかなと思う。
- ・第1話～6話まで観て、最後まで完結するというのは巧みな作りでおもしろいなと思った。地上波のドラマだと途中で分らなくなってしまうのかなと思ったので、6話一気に見たことでの連続性の面白さ、個々の一人一人の話のつながりというところに面白さを感じた。
- ・必ずしも環八である必要のあるところが出てこない気がする。東京の話なのかなとも思ったが、原作があることの兼ね合いというのはあるかと思うが。CSは日本全国の方が観るので、決して東京というローカルにとらわれる必要がない。もう少し別の地域を舞台にしたものが合っても良い。そうすればローカルティが出せる。私たちは東京にいるので分かるが、地方の人にはその部分が抜けていて、そこが残念という気がした。
- ・主人公の6人の女性、色々な世代がいるが、こういう人が持っている悩みに突っ込んでい

るわけでもない。ものすごいコンテンツがネットの中にある、その中でこのドラマを見る意味というのは何なのかとってしまう。女性の話題性ということでひねるのであれば、もう少しひねりようがあるのかなと。例えば、アメリカだと Facebook とかと連動させていく。コミュニティーを作って「私はこうだった」とか話を誘導していくなど、テレビで完結させない工夫が必要なのかなと思う。

- ・番組自体は良いと思うが、何を売りにして心をつかみたいと思っているのかなというのが気になりました。この放送時間も、主婦がほっと一息つく時間、そこに向けて発信するのであれば、もっと女性の心に響くような、内容だけではなくコミュニティーを作るなどの工夫や、広げていく工夫が必要ではないか。そうすれば「昔は私もこうだった」とか広がっていく可能性もある。そういう取り組みをすでにしているのであれば教えてほしいです。
- ・感情 8 号線というタイトルもよいと思うし、いいところをつかんでいる。今という時代を良く見つめているのはタイトルから感じた。環八周辺でたまたま観たらつながっていたというくらいの感覚、それも含めて今っぽいなど。ただ、全体通して観た時に、テーマが必要かと思う。3.11 の現場なども見たが、人間の不幸とはいったい何なのかと思ったが、愛しか語れない不幸というのはあるなどと思った。大事なんだけど狭い、それに気が付かない不幸。被災者の話は家族の話が多いが、それは 3 日もたてば終わってしまう。色々なコミュニティーがあるはずなのにそれにどう接していいか分からないという狭さ。このドラマを観た時に、同じだなと思った。つまり何か一生懸命描こうとすると、愛しか語れない、それは相当不幸なことなんだよという話。原作者がどこまで考えて、見えていたのかということ。今の時代はそこそこ幸せそうに見える人でも、この子を取りまいて希望って何なんだろう、ということを作作者が考えないといけないと思う。そこまで見えていたかどうか。そして逆に原作に依存し過ぎてはいないかと思う。

制作サイドからは

- ・今回の企画はひかり TV と組んで、連続ドラマを作ろうという話になり、ひかり TV が 4K 部分、TWO では普通のドラマとして、初めてタッグを組んだ 1 作目。4K で撮るのであれば、最初は原作がある分かりやすいものでやろうとなった。また、TWO は韓流など女性層をターゲットなのでその方向でやりたいと思った。多くの方が仰っていた「場所が出せていない」というのは実は作りながらも感じていたが、原作者の「8」のこだわりというものがあつた。女性たちが悩んでも立ち上がりながらずっとつながっていく意味で「8」にこだわりを持っていたので、そこは共感してこだわってやっていた。
- ・#2 以降が男性陣としては面白くなかったという意見に関しては、プロデュース陣が女性で、女性が女性に向けてというのを強く出していたのでそう感じたのではないかと思います。またこの作品は日々あるような題材を扱っており地味な話ではあるので、パッケージ感を大事にしたいなどと思って作っていた。女性たちの今後のシーンを冒頭で見せたり、

スモークをたいて怒りの部分を強調したり、エンディングの歌を初めて女優さんに歌ってもらったり、人物が全員つながっていて最後つながるという見せ方は演出意図的なものの。

- ・ キャスティングは分かりやすい人で前半は固めていた。ただ私はそもそも川栄さんが好きで、舞台も踏んでいるし、女優として好きなので純粋に第1話で良いなと思っていた。ただ、仰っていた通り、2話3話の方が話として分かりやすいという意見もあったので、それを#1という話もありいろいろ考えたが、いろいろな人物が出て来るので、登場の仕方が難しかった…やはり原作は上手く順々に登場人物を出しているんだなというのを感じ、見つめなおした結果、原作に立ち戻って作っていたというのが実情。
- ・ #2のDVは、事柄だけで言うとそういう女性ではあるが、女の3人との会話で独特な裏側を出したいなと思っていた。それが伝わらなかったのは失敗だったかなと思う。
- ・ 結末は視聴者に今後を想像させる余白を作っていたなと思っていたのであんなっている、原作者ともそう話していた。
- ・ 確かにドラマだけで終わらせてしまったので、コミュニティー構築などに関しては、今までやったことが無かったので参考になりました。今後チャレンジしていきたい。

「MY CAT FROM HELL」 猫ヘルパーについて

- ・ とても面白かったです。猫のしつけを教える人のファッションとあって、自分は猫の気持ちになっているんだって人がやっているので印象が良かった。話としても、自分がクローン病なんだけど猫を飼っていくうちにもっと悪くなっていくという話があった。悪くなるなら猫飼わなきゃいいのにと思っていたが、最終的には良くなって癒されていくというの面白かった。こういう番組って日本で作れないのだろうかと思った。やはりアメリカだからこそできるのでしょうか。
- ・ アニマルプラネットは番組によってはとても長い時間をかけて追いかけるイメージがあったが、こういうハウス物は結構日本でも行けるのではないかという印象でした。
- ・ 僕も猫と一緒に住んでいたり、近所の野良猫におばさんに隠れてえさをやっていたりするのですが、さっきのドラマと比較すると、こちらの方に人間味があったかなと思う。6話のドラマを見た後に30分のこの番組を観たらこちらの方がジーンとしてしまった。
- ・ 日本はあらゆるもので後進国。禁煙に関してもそうだが、動物の後進国性というかペットのセールをしているなど。アニマルプラネットを見ているともっとこういう番組を観ろと思う。2つの対照的なものを見せてもらったなという感じです。
- ・ 猫の方ですが、ペットがいない人でも分かりやすかったのと、テロップ入れるのと訳すのが大変だったと思う。のめりこむような構成になっているし、タイミングも含めてすごく良くできていると思う。また、向こうで作られているからか、ナレーションが一つも入っていない。これが日本だと、ナレーションがガラパゴス的に進化しているので、今の日本が学ばなくてはいけない文化だなと啓発された部分でもある。ただ、ペットを飼っていない

い人には分らないシーンもあり、最低限のガイドはあった方がいいと思うので右上サイドにいま何をしているかのテロップを入れるなど、なぜこういうときに暴れるのか、というのはそれぐらいの説明はあった方がよいのではないか。また、平気で猫を風呂に入れている。猫の毛皮は耐水性ではないので、水を含むと重くなるので泳げないそうです。人間の都合で入れてはいけなけれど臭くなるから入れるという話。

- ・説明のテロップに関しては僕も同感で、動物学的な検証がなされて、水に浸すのはどうなのかとか、理由づけというのは必要かと思った。猫を手なずけたいという人にとって良い番組になったのではないか。日本で独自にこういう番組を作ってもよいのではないかと思う。
- ・ヘルパーのジャクソンが猫と向き合って猫を変えていくということなのかとと思っていたが、むしろ飼い主の変化の方に重きを置いていた。人間の意識の改革とか、人間の心の成長物語として描かれていて面白いと思った。うちの猫とここが違うとか、そういうことを考えながら見ることができるのも魅力かと思う。最初の部分、ジャクソンはバーバルコントラクトという言葉を使う。4回～5回くらい使っている。バーバルコントラクトとは日本語に訳すと「口頭での契約」なので、訴訟社会ならではの殺し文句なのかなと思って面白いと思った。インスタに猫をあげるとviewがあがるというくらいのもの。アメリカでは常識。猫を好きな人がこれを観て、「うちの猫どうしよう…」と思ったときに、その人たちを引きつけてコミュニティーを作っていくような広がりが必要かと思う。番組とチャンネル外のコンテンツが無いと、この情報社会では厳しい気がする。
- ・この番組に関しては、猫を見つめて描くのではなく、アメリカを描きたいのではないかと思った。爪切りのシーンでアイマスクをつけていたが、あれは日本にはなくアメリカにしかないもの。もっとアメリカなのは、お兄さんに出会わなければ、自分たちで変わろうという思いが一切ないところ。飼い主たちは猫が悪いのであって、自分たちが悪いとはさっぱり思っていない部分、ここがいかにもアメリカだなと思った。アメリカの視聴者に向けて描いていくとこうなるんだというのを感じた。

ディカバリー松本さん：

- ・なかなか厳しい意見があるかと思いきや好意的な意見でホッとしている。
- ・猫ヘルパーは2011年から放送している。これだけ長いシーズンで猫のしつけに特化した番組は日本では少ないだろうと思い選ばせていただいた。
- ・この番組の面白さを自分なりに申し上げますと、猫の変わりっぷりです。最初は凶暴だったのに、最後にはおとなしく教育されているというギャップ。もうひとつは人間味。猫をしつけるように見えて、猫を飼っている人間をしつけるというヒューマンな要素もアメリカでは受けているのかなと思っている。
- ・場面説明のようなテロップを入れられないかという話。こちらは技術的な制約がある。弊社ですと番組自体に説明書きのテロップというものをに入れて焼き付けるということ

していないので、字幕を入れた上で、テロップを入れるというのは厳しいし、手間も時間もかかる。こういう番組が日本でも作れないのかという意見に関しては、日本のお宅にお邪魔してペットをしつけるという番組も作れたらいいなとは思っています。

清水社長から

- ・僕らで作っているのは何のためかということ、そしてそれを話題にするために何をしているのかということ。テレビで完結するというのはCSの有料多チャンネル業界ではこれまでそれで済んでいた。しかし、それを広げるということをちゃんとした取り組みとしてやっていない。そのための専属の広報チームなどが出来ていない状況。環境の変化への対応できていないというのは今のペイ TV 事業の問題点だと思っています。

会社側から番組審議会委員の任期について提案した。

- ・委員の皆様の時間的なご負担を考慮し、さらなる意見の多様性という観点から、任期を3年とし、再任は1回だけというルールでいかがでしょうか？

任期途中でやめることができないということではなく、皆様の仕事の事情、あるいは健康など個人的な理由などで任期途中にお辞めになりたいという場合は、お申し出いただければ、ご意向に沿うようにしたいと考えています。

- ・各委員から特段の意見が無かったので、今回から任期を設定することとした。
- ・また、平野部長からフジテレビ NEXT で放送している「TOKYO SESSION -ROCKIN' GAMBLER- 第3夜」が第36回 日本照明家協会賞テレビ部門・優秀新人賞を受賞したことを報告した。今回の受賞対象の第3夜は char さんがゲストで出演している会。非常に名誉ある賞で、CS からは唯一この番組が受賞している。後日、DVD を郵送することをお伝えした。

その他の番組について

藤原委員から質問

- ・一昨日、巨人戦を TWO で放送していた。TWO はドラマのイメージがあるが、なぜ ONE ではなく TWO でプロ野球を放送したのか？

窪田部長から回答

- ・昨年度から TWO でもライオンズ戦を放送しているのでスカパーのプロ野球セットに ONE も TWO も入っている。追加の料金なしで負担をかけずに放送できるという点はある。ONE が空いていれば、基本は ONE で放送するのですが、今回は ONE に「競馬予想 TV」という ONE の看板番組が入っており、実はこの時桜花賞の予想だった。野球が伸びてしまうと被るので、空いている TWO で放送しようという結論となった。

5. 報告事項

- ・次回は平成 29 年 10 月 2 日（月）12 時からを予定。
- ・議題はフジテレビ ONE とフジテレビ NEXT の番組の予定。